

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 言語教育研究センター |
| 大項目 | 4 教育研究組織 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである |
| 要素 | 教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況 |
| 小項目 | 4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 社会環境や学生の教育ニーズの変化、学部増等に対応するため、センター運営組織体系を2013年度を目途に見直す。 | →言語教育研究センター運営組織体制の確立。 | C | B | B | | |
| 2. 地域社会への貢献のため、中・高英語担当教員を対象とした教育プログラムを、現行の1.3倍の規模に拡大する。 | →中・高英語担当教員対象のセンター教育プログラムへの参加者数。 | B | B | B | | |
| 3. 英語を始めとする言語教育において言語運用能力の涵養に重点を置いたプログラムを提供することで応える。 | →インテンシブ・プログラム受講者数、言語教育科目の履修者数。英語インテンシブ・プログラム受講者のTOEFLの成績。 | A | A | A | | |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 2011年度に日本語教育センターが独立したが、それ以降、運営組織体制に変化はない。 |
| 目標2 | 「英語教員のために夏季英語セミナー」には毎年平均20余名の参加者があるが、1.3倍に拡大するという目標を達成するにはさらなる工夫が必要である。 |
| 目標3 | 英語インテンシブ・プログラムは学生からのニーズが高く、本センターは毎年平均80クラス以上を開講し、学生の要求に応じている。英語以外の言語も、学部では提供できない言語運用能力の涵養に目標を定めた教授法で授業を展開し、学生の国際的なセンスを高めている。 |
| 備考 | |